

# 洗平兄弟 父の夢実現

## 聖地で輝き、竜也さん涙



【写真上】3回、比呂が二塁打を打ち喜ぶ竜也さん(中央)  
 【同下】愛工大名電に敗れ、スタンドの応援席にあいさつに  
 向かう比呂(右)と歩人(右から4人目) 〓ともに12日、甲子園

12日に行われた全国高校野球選手権の2回戦で、本県代表の八戸学院光星は愛工大名電(愛知)に惜しくも敗れた。一方で、主将兼エースの洗平歩人(3年)と左腕の弟・比呂(1年)は、父・竜也さん(43)〓六戸町出身〓が立てなかった

「聖地のマウンドで躍動。父から兄へ、兄から弟へ。『甲子園で輝く』という夢のバトンをしっかりと受け継いだ。」  
 【詳報17面】  
 旧光星学院時代に主戦を張っていた竜也さんは、1994〜96年、青森大会の決勝で3年連続涙をのみ

「悲運のエース」と呼ばれた。大学卒業後はプロ入りするも、3年後には第一線を退いた。息子2人は父の背中を追って光星に入学。競争を勝ち抜き、甲子園への切符を手にした。  
 比呂は12日、大舞台で先発を任された。青森大会で

は2試合で3回を投げるも被安打7、2失点と振るわず。決勝戦の後には悔し涙も浮かべた。雪辱に燃える弟はこの日、力強い投球で相手の強力打線を5回1失点に抑えた。打っては三回、同点に追い付く足がかりとなる二塁打を放った。

一方、青森大会で再三の危機をしのいだ歩人は、創志学園(岡山)との初戦でも、1死満塁のピンチをものもしない勝負強さを発揮。愛工大名電戦も、九回裏のピンチで相手の4番を中飛に打ち取った。

愛工大名電には敗れたが、「悔しいけど、この負けを次につなげたい」と今後の野球人生を見据えた歩人。同時に「1年生らしくらぬピッチングだった。一緒に野球ができて楽しかった」と弟をねぎらった。  
 息子たちの激闘を現地で見届けた竜也さんは「2人ともよくやった。歩人には『お疲れさま』と言ってあげたい。比呂はきょうがスタート。もう一度、甲子園に立ってほしい」と涙を拭いた。父と兄の夢を受け継いだ比呂は「この悔しさは秋の県大会につなげる。次は自分が(春の)センバツに引っ張っていく」と誓った。  
 (野村遥)